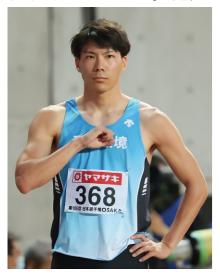
佐藤 風雅 (さとう・ふうが)

1996 年笠間市生まれ。笠間市立友部中学校、茨 1996 年受間市生まれ。受間市立友部中学校、茨城県立中央高等学校、作新学院大学を経て、(株) 那須環境技術センター(本社・栃木県那須塩原市)で社会人陸上の世界へ。種目は 400m。自己ベスト記録は 45 秒 40(2022 年 5 月・セイコーゴールデングランプリ東京)で日本歴代 8 位。主な競技歴として、2020 年日本選手権 400m 3 位、2021 年日本選手権 400m 5 位。2022 年にはセイコーグランプリ東京 400m 2 位、日本選手権 400m で優勝、世界選手権 400m では準決勝進出、同選手権 1600m 11 レーでは第一書また 17 日本 同選手権 1600m リレーでは第一走者として日本 新記録(アジア新記録)で 4 位に貢献した。2023 年 4 月より「ミズノトラッククラブ」に移籍。





た。ですから、大学で陸上部に入った時は、高校三年生の時には県大会で優勝しまし ら、大間違い。県大会優勝のレベルでは、「そこそこはやれるだろう」と思っていた うものを意識するようになったのは。その頃からですね、自分の立ち位置とるはずがない」と思い知らされました。

なって、中学校では野球部に所属しましスポーツのほうで頑張ろうと思うようにんですね。次第に、足の速さを生かしたは速くても、「一番」ではなくなっていく ちょっと成長が遅かったせいか、走るのも負けない走りだったのですが、人より校に入った当初はたしかに同級生の誰に で速くなるはず」と信じていました。 ながらに、「僕も(父の能力を)受け継

ことに出会えた喜びと自信が今も生き続県大会に出場。自分が真剣に向き合える 久しぶりに勝つことの喜びを味わって、学校内の陸上競技大会で優勝したんです。 のは中学三年生の頃。そのタイミングで 高校で本格的に陸上を始めたのですが、 の級友たちに追いついた

(二〇二〇年)、

コロナ禍で五輪は延期。

の時に、世界大会東京五輪の時で-

世界大会の代表に選ばれるよう間の時でした。社会人選手二年目

国内から世界へと意識を変えたのは、いなかったことを自覚させてくれました。

の喜びを再認識できたんです。令和二年て。自分の走る原点である「勝つ」こと

なトップレベルの選手に勝つ機会があっ

りでした。でも、練習を続けていくうちに、て、このくらいなのかな」と落ち込むばか最初は全く結果が出なくて。「自分の力っ だんだん結果が出てくるようになって、 高校二年生の時に初めて関東大会に出場。 五輪翌年の令和四年(二〇二二年)、日本す。東京五輪への出場は逃しましたが、ことでモチベーションを維持できたんで 僕は記録が伸びたこともあって、次の目ベーションの維持に苦労していた時期に、選手の多くがコロナに翻弄されてモチ 決勝に進むことができました。権に初めて出場して、四百メ ことでモチベーションを維持できたんで標に向けて自分のスタイルを作り始める 選手権の四百メ 二〇二五年には、 トルで優勝、

世界選手

僕がもともと持っている才能は大き 世界陸上競技選手権大会があります。 からの三年間が僕の / リ五輪、 人生の勝負どころ。

まずは百メー

ていないこと、に練習している か。でも、それは言い訳。大学で競っす。「コーチに恵まれているんだろうな」 す。「コーチに恵まれているんだろうな」な」と、自分の才能の無さを嘆いたもの 見ると、「持って生まれた才能があるんだ 選手たちを見て、彼らが自分よりはる いること、 自分が本気になりきれること、自分の努力が足

まずは百メートル、次は二百メートルで、まず身近なところから一番になろう」と。

## 才能は、小さくても、無限大。 郷里の校庭を走る勇姿、世界へ。

みずからを「遅咲きの選手」と評する。26歳で陸上の名門「ミズノ」に移籍するのも、異例のことだ。中学、 高校、大学、社会人と、陸上の舞台を駆け上がるたびに、そのレベルの高さに驚き、戸惑い、辛苦を味 わいながらも、常に地道な努力で乗り越え、みずからの成長に繋げてきた。原動力は、「勝つ」ことの 喜び。郷里の学校内に始まり、県内で、国内で勝利した今、次の目標は世界だ。

## 佐藤 風雅さん

陸上競技選手



